

Company / 会社情報

会社概要

商号 岩田地崎建設株式会社
 創業 1922年(大正11年)
 資本金 20億円
 社員(役員含)数 851名(2026年4月1日現在)
 決算期 3月
 本社 〒060-8630 札幌市中央区北2条東17丁目2番地
 支店 東北・東京・名古屋・大阪・広島・四国・九州・海外
 営業所 旭川・函館・帯広・釧路・岩手・横浜・新潟・埼玉・神戸・台湾
 (駐在員事務所 モンゴル・キルギス)

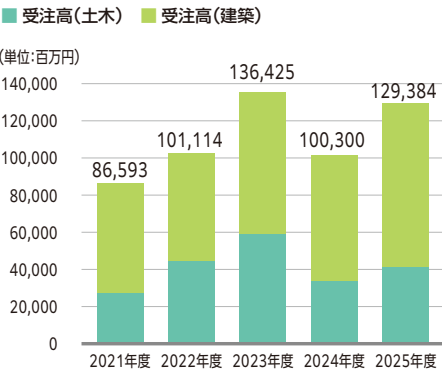


事業内容

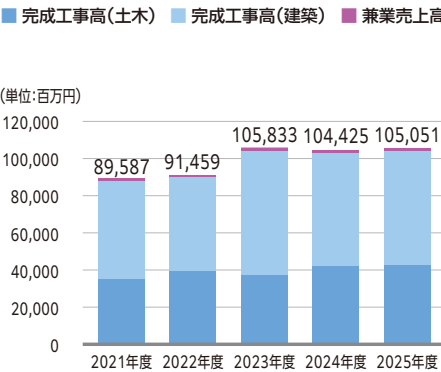
1. 建築工事、土木工事、機械装置の設置工事、その他建設工事全般に関する請負または受託
2. 建設プロジェクトならびに地域開発、都市開発、海洋開発、資源開発、環境整備、エネルギー供給に関する調査、企画、研究、評価、診断、測量、設計、監理、調達、運営管理、技術指導、その他総合エンジニアリング、マネジメントおよびコンサルティング
3. 土地の造成および販売、ならびに住宅等建物の設計、施工および販売
4. 道路、鉄道、港湾、空港、河川、上下水道、庁舎、廃棄物処理施設その他の公共施設およびこれらに準ずる施設等の企画、設計、監理、施工、保有、賃貸借、譲渡、維持管理および運営
5. 不動産の売買、斡旋および賃貸、管理、企画ならびに鑑定評価
6. 特別目的会社または組合および不動産投資信託への出資、出資持分の売買ならびに信託受益権の売買、鑑定評価
7. 金銭貸付および債務保証その他の金融関連業務
8. 建設資材の製造、採取、売買ならびに建設機械、装置、仮設機材の企画、製作、調達、販売、賃貸
9. 情報処理技術、ソフトウェア、電子機器、通信機器、人工知能技術を用いた製品の企画、開発、実施許諾、販売、および賃貸
10. 建物、設備、構築物、地盤の検査、診断、観測、評価、マネジメントおよびコンサルティング
11. 一般廃棄物・産業廃棄物・建設副産物の収集、運搬、処理、処分、再利用に関する事業、環境保全および循環型社会形成に関する調査研究、企画、開発、エンジニアリング、マネジメントおよびコンサルティング
12. 農林水産業関連技術の開発、取得ならびに生産、販売、実施許諾、その他関連施設の運営およびコンサルティング
13. 前各号に付帯する一切の事業

業績報告

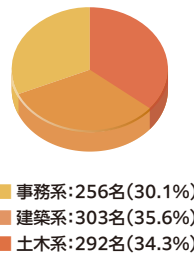
受注高



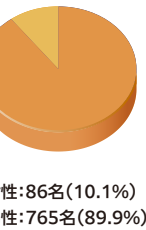
売上高



技術・事務社員比 (総数:851名)



社員男女比 (総数:851名)



社員(役員含)数 851名(2026年4月1日現在)

事業所一覧



HISTORY of IWATACHIZAKI

当社は、創業者・岩田徳治が1922(大正11)年、村上組から独立し、当時の札幌村大字雁来村(現在の札幌市東区苗穂町)に「土木建築請負業」の看板を掲げて創業して以来、104年にわたり北海道の発展とともに歩みを重ねてまいりました。

創業以来、社会や経済環境の変化に伴う幾多の困難を乗り越えながら、誠実なもののづくりと技術の継承・発展に努め、今日の礎を築いてまいりました。これもひとえに、お客様をはじめ地域社会の皆様、協力会社の皆様、そして先人諸氏からいただいた長年のご支援とご厚情の賜物であり、心より感謝申し上げます。

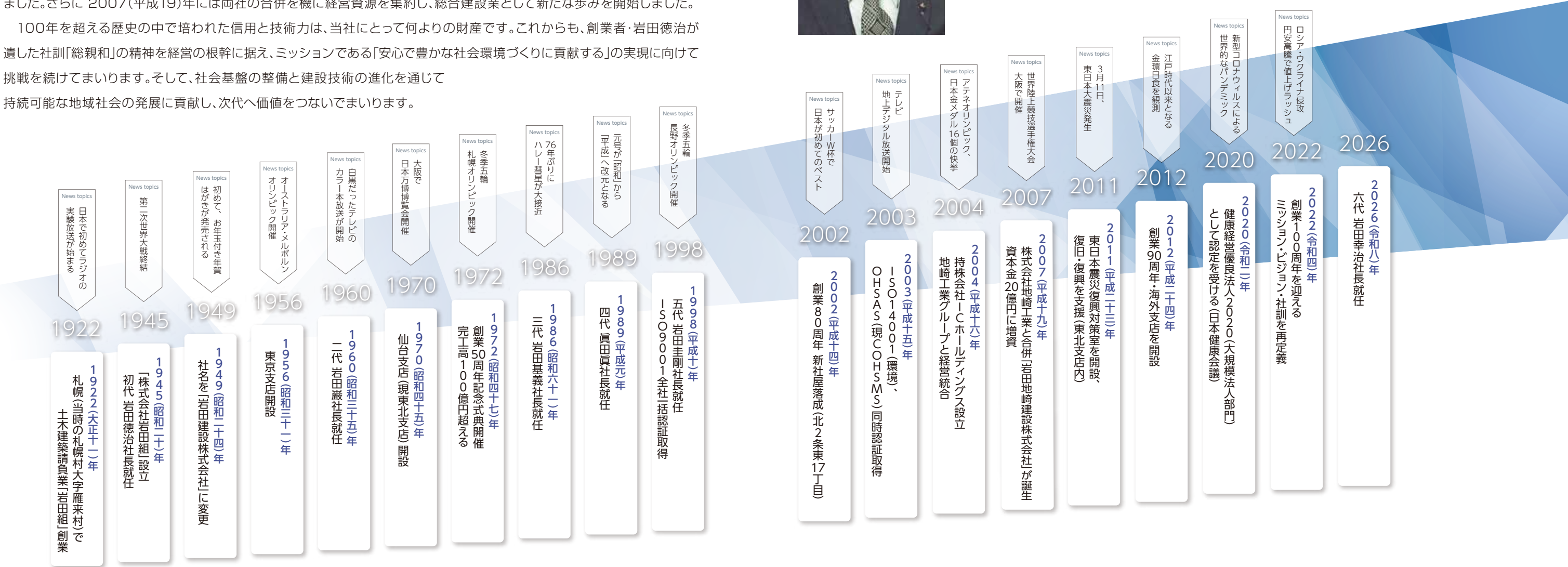
2004(平成16)年には株式会社ICホールディングスを設立し、地崎工業株式会社との経営統合により経営基盤を強化しました。さらに2007(平成19)年には両社の合併を機に経営資源を集約し、総合建設業として新たな歩みを開始しました。

100年を超える歴史の中で培われた信用と技術力は、当社にとって何よりの財産です。これからも、創業者・岩田徳治が遺した社訓「総親和」の精神を経営の根幹に据え、ミッションである「安心で豊かな社会環境づくりに貢献する」の実現に向けて挑戦を続けてまいります。そして、社会基盤の整備と建設技術の進化を通じて持続可能な地域社会の発展に貢献し、次代へ価値をつないでまいります。

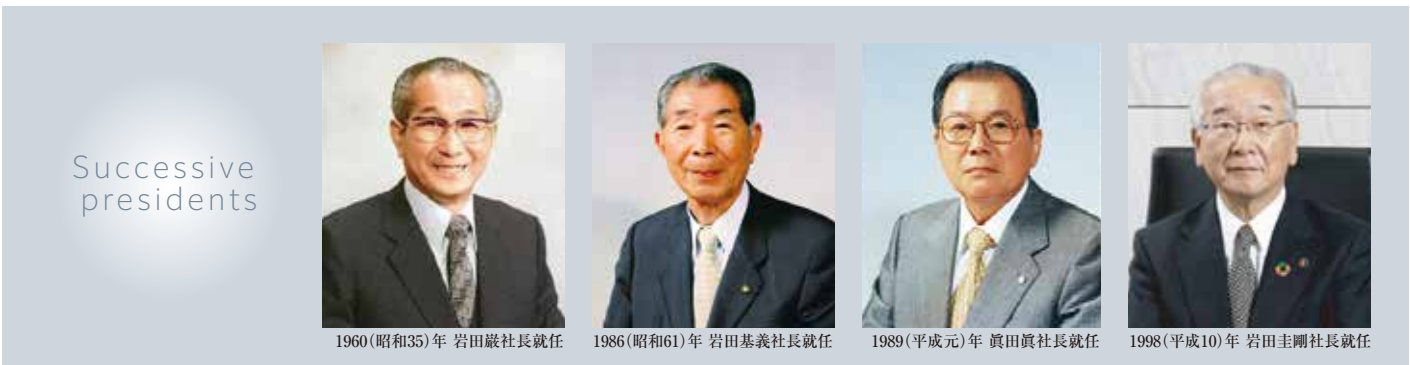
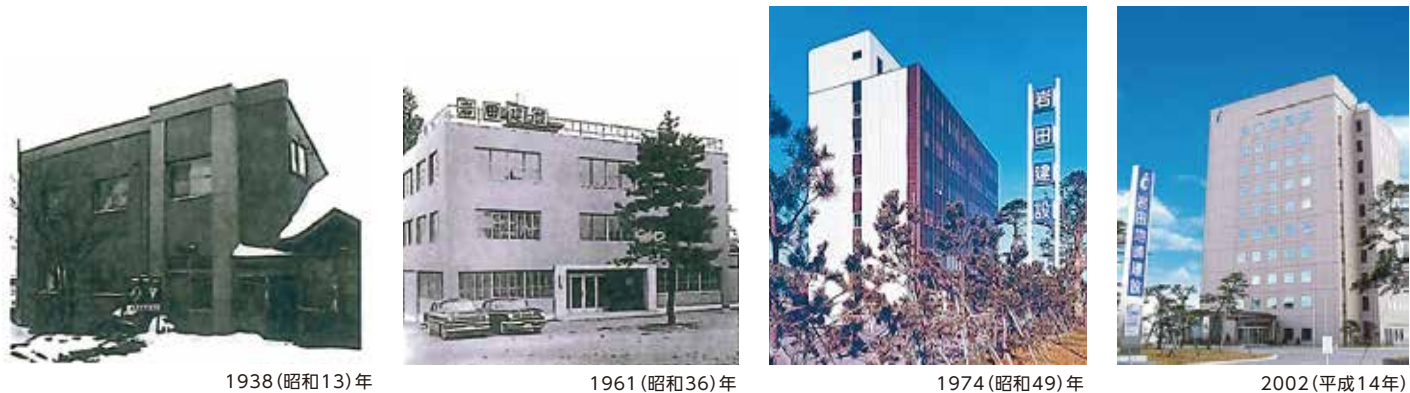


“ 人一倍の努力をせざれば 人一倍の人に成ることあたわず ”

創業者 岩田 徳治



Company History



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？



“健全な地球を
未来へつなぐための
私たちの行動目標”です

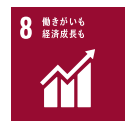
世界には多くの課題があふれています。その中でも特に重要な課題について『17のゴール』を設定し、全世界で取り組んでいこうと掲げているのがSDGs(持続可能な開発目標)です。



4 質の高い教育をみんなに
だれもが公平に 質の高い教育を受けられるようにしましょう



世界中のすべての子ども達が無償で質の高い教育を受けられるような社会を作ろう。求める誰もが大学などの高等教育や技術教育など、生涯にわたり学び続けられる仕組みを作っていこう。



8 働きがいも経済成長も
経済を持続可能に成長させつつ、だれもが働きがいある仕事ができるようにしましょう

技術の向上・イノベーションを図り、新たな価値を発掘し、新たな需要創出や雇用を継続的に生み出そう。すべての人が働きがいを持って安心して働ける環境を作っていこう。



12 つくる責任 つかう責任
作る人も使う人もお互いが責任を持ち持続可能な形で生産・消費しよう

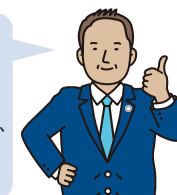


限られた地球の資源を大切に利用し、未来も同じクオリティ以上の資源を活用していくため、これまでの自分のやり方を見直してみよう。3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進め、ごみの削減を推進しよう。



16 平和と公正をすべての人に
だれもが平和に安心して暮らせる法に守られた社会の仕組みを整えよう

私たちの生活は、平和・安全・安定・人権そして法令遵守に基づいて成り立っているよ。すべての人が自分の意思を平等に伝えられる機会が与えられ、紛争や暴力・犯罪のない世界を目指そう。



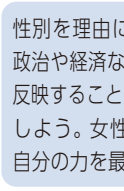
1 貧困をなくそう
世界中のあらゆる場所で、あらゆる形の貧困を終わらせよう



世界中には貧困で困っている人がまだ数多くいるんだよ。世界中すべてのひとが生きていくのに困らない衣食住などの基礎的サービスを受けられるような環境を整備しよう。



5 ジェンダー平等を実現しよう
性別を理由に 不平等な扱いを受ける世界を変えよう



性別を理由に、差別や暴力を受けることをとめよう。政治や経済などの重要な意思決定の場に女性の意思を反映することで、性別に関係ない公平な仕組みづくりをしよう。女性だけでなく、すべての人がいきいきと自分の力を最大限発揮しながら働ける社会にしよう。



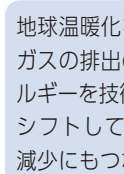
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
災害に強いインフラを整備して、持続可能な産業を発展させよう



情報通信・エネルギー・交通・公共施設など、私たちの社会生活基盤となるインフラ。災害非常時などに損壊したとしても早急に復旧が可能な、質の高いインフラ整備を目指そう。



13 気候変動に具体的な対策を
再生可能エネルギーへのシフトは、未来のことではなく、近未来の目標



地球温暖化をこれ以上進めないように、温室効果ガスの排出の削減に努めて、化石燃料由来のエネルギーを技術イノベーションで再生エネルギーにシフトしていこう。昨今の激甚化している災害減少にもつながるよ。



17 パートナーシップで目標を達成しよう
世界の国々やひとりひとりが協力しあい、持続可能な世界をつくろう



2030年までに持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためには、まずひとりひとりが意識改革をし、行動することが重要。でも、一人の力だけでは実現できない。産学官が連携し、パートナーシップを構築して、みんなの力を合わせて達成しよう。



2 飢餓をゼロに
だれもが必要な分の、栄養のある食事を食べられるようにしましょう



飢餓に苦しんでいる人をなくすために、栄養が十分な食料の安定確保をしよう。そのために農業分野の技術開発、農作業の効率化をしていこう。まずは身近な食品ロスをなくすことから意識してみよう。



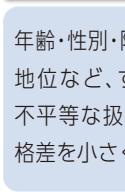
6 安全な水とトイレを世界中に
衛生的な環境を保てる仕組みを広め、すべての人が安全な水を利用できるようにしよう



日本は水循環システムが確立し、非常に衛生的な国なんだ。このような上下水道の処理技術を広めることで、世界中のだれもが安心して安全な水を飲めるようにしましょう。同時に水質汚染を防ぎ、水環境の生態系も守っていこう。



10 人や国の不平等をなくそう
ひとつの国の中でも、国と国の間でもすべての不平等をなくそう



年齢・性別・障がい・人種・民族・出自・宗教・経済的地位など、すべての人がその違いに関わらず、不平等な扱いを受けない世界を目指し、様々な格差を小さくする仕組みづくりをしよう。



14 海の豊かさを守ろう
海や海の資源・生態系を守り、持続可能な方法で利用しよう



海は、私たちが地球上で生活することを可能にしている重要なシステム。海洋汚染を防止し、海や沿岸の生態系を保全・改善する取り組みをしていこう。漁業や観光など、海の資源を利用するときは持続可能な利用方法にしよう。



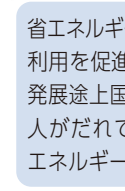
3 すべての人に健康と福祉を
すべての人が健康的に暮らしていける仕組み・社会をつくろう



ひとりひとりが病気に関する正しい知識と予防方法を身に着けよう。そのための人材育成・教育を受けられる仕組みをつくり、世界中のすべての人が、適切な医療を適切な時期に受けられるような社会にしていこう。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
世界中のだれもが、必要な分のエネルギーを安心して使えるようにしましょう



省エネルギーの推進と同時に、再生可能エネルギーの利用を促進していこう。発展途上国への技術教育・提供によって、世界中の人がだれでも必要な時に必要な分だけ安定したエネルギー利用ができる環境を作っていこう。



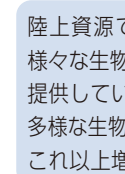
11 住み続けられるまちづくりを
だれもが住みやすく、安全で災害にも強い持続可能なまちづくりをしよう



都市部に集中している人口を郊外に分散させる交通網の形成、都市空間の整備・管理方法を考えて持続可能なまちづくりをしていこう。だれもが安心・安全で快適に利用できる施設・環境づくりを目指そう。



15 陸の豊かさを守ろう
森林・山・河川などを大切にし、多様な生物が生息できる環境を守ろう



陸上資源である、森林・砂漠・湿地や河川などは様々な生物が生きていく上で必要な生活の場所を提供しているよ。多様な生物が暮らせる生態系を守り、絶滅危惧種をこれ以上増やさないようにしていこう。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。